

日韓印刷学術・文化交流25年（第2報）

－1998年から2005年まで－

国際印刷大学校

木下 堯博

3、 日韓での印刷交流（後期）

1997年11月、韓国の経済状況はウォンの下落により、経済の構造問題が表面化し、経済危機に陥り、IMFに570億ドルの支援を求めた。それに対し金融改革、財閥改革、労働市場改革の3項目の改革断行が義務づけられた。1998年各期はマイナス3.9%からマイナス6.8%に推移し、一層、経済上困窮する時代となった。印刷分野で台頭してきた電子出版物（CD出版など）も低迷していった。1999年は2%の成長がみられ回復は低調であるが、明るい展望としてCyber Korea 21計画で高速通信網の確立があり、IT立国への舵をとったといえよう。更に、Windows DTPに対応するソフト開発など明るい展望が開かれた。(1) 1999年に1997年のユネスコ大会を参加した時の発表要旨を補足し、論文として「Studies on the Innovation of the Printing in China and Korea ; Its Spread and Japan」をまとめた。これは韓国を中心とし、中国での印刷の発明と日本への伝播を研究した論文である。(2)

印刷雑誌1998年1月号(3)にこの会議の詳細をまとめているが、世界最古の現存する印刷物に関し、中国、韓国、日本の論争になった。ユネスコ本部でもこれを注目していて、ユネスコの世界遺産の「Memory of the World」としての方向性がdrupa2000の5月にまとめられることになっていたが、未解決で今日に至っている。

その後、2000年10月12日、清州市古印刷博物館主催で印刷史に関する第3回国際シンポジウムが開催され「Development of Modern Printing Technology in Japan」を発表した。この内容はdrupa2000が同年5月の最新印刷技術動向をふまえ、「印刷の発祥から印刷産業の発展」をまとめた。参加者はイギリス、ドイツ、韓国、日本からで、印刷の技術と周辺領域の研究発表があった。(4)

2000年10月16日、ハンソール製紙(株)の研究所で「今後の印刷研究」と同社の製紙博物館を見学した。

2000年11月23日、「枚葉オフセット印刷機械の印刷適性」を韓国材料機械研究所で、翌日の24日に「色再現の標準化」と題しKAGAIT（韓国印刷研究会）で報告し、韓国の印刷技術の今後の発展を期待した。前者は韓国印刷学会誌（韓国印刷学会論文誌）に「A Trend of Sheet Fed Offset Printing Machine」と題し連名で掲載された。(5)

それに先立ち、2000年7月3日、釜慶大学校（釜山工業大学と水産大学と合併し、画像情報工学の博士課程増設）で「drupa2000と今後」と題しdrupaと今後の印刷界の展望に関し教職員・大学院生を対象にして講演し、その後の昼食会兼討論会で印刷教育に関する有意義なディスカッションが出来た。

2001年6月9日、韓国印刷学会国際会議が大田市にある中部大学で開催され、Guest

Speaker にモスクワ印刷大学のチガネンコ学長と著者が招待され、私は「**The Virtual University in the World and the Establishment of the International Graphic Arts and Printing University**」を発表した。

主催校の中部大学校は製紙工学と印刷工学に関する学科があり、モスクワ印刷大学とは姉妹校の関係で毎年交流をしていた関係でチガネンコ学長が招待されていた。

2002年に世界の印刷教育会議がモスクワ印刷大学主催でサントペテルブルグにて開催されるとのこと、ドイツ語で招待を受けた。がしかし2～3回メールを受けたが諸般の事情で参加出来なかった。これは1964年ハイデルベルグに留学した時もモスクワ印刷研究所から招待の電報をもらい、列車でモスクワに向かう途中チェコのプラハでコボ社の見学などを行っているうち、モスクワ行に乗る機会を逸した。

2004年 **drupa** の帰路、ケルン駅でパリ行きの国際列車（10時2分発）を待っていたら、モスクワからの国際列車が到着（9時31分着）した。当時と異なりモスクワとベルリン経由ケルンの路線は週1回から毎日運行されるようになり、隔世の感があった。

Print01、IPEX2002、IGAS2003、drupa04 で韓国の印刷企業、プリントメディア系の大学などとの交流があり、日本国内で韓国の大学や研究所のメンバーとのナノテク討論会、印刷教育研究会などを開催してきた。

4、 出版印刷企業との交流

2005年7月29日、30日、韓国財閥企業のグループ企業の斗山印刷で「世界の印刷産業のIT化に関する展望」と題し講演を行った。

韓国の財閥は経済をリードしてきたが、1997年の経済危機により、一部解体されたが、政府主導の経済から脱却し、自立的な企業主導経済へ転換しつつある。

斗山グループは建設、重工業、食品、ファッション、出版など多くの企業がグループとして形成されている。この斗山印刷は、グループ内の需要と外部受注の両者を印刷していて、海外の輸出が10%程度あり、オフセット枚葉印刷とオフ輪印刷が中心でグラビア印刷も行っていた。プリプレス部門ではサーマル **CTP、True Flow** などデジタル化にも積極的に対応していた。**CTP** 版はコダックを使用していた。プレス部門のオフ輪は **KBA** と三菱、枚葉機は小森とハイデルでいずれも24時間2交代で作業を行っている。

この日韓印刷学術・文化交流25年目は7月29、30日の2日間にわたる講演と討論では品質、標準化、生産性、採算性の他、技術面では水なし平版、**CMS、ISO9001**、電子出版、**WF**、原価論など多岐にわたる議論がされた。

日本機械工業会と日本印刷産業機械工業会がまとめた韓国と台湾の印刷技術基盤動向によれば韓国の印刷総出荷額は **5,521** 億円程度と推定されていて、大手10数社が教科書や参考書の出版会社との協力体制にある。カタログ、カレンダーなどは輸出の対象になっている。1997年の経済危機以降、全産業ともに熟練工、技能労働者の不足が続いているが、印刷産業も同様である。(6) この斗山印刷には本館の1階に印刷博物館があり、創業時からの教科書など印刷史に残るユネスコ文化遺産の八万大蔵経、直指心体要節など韓国の

代表的印刷の発明を展示解説し、更に、活字、平圧式印刷機械など実物の展示があり、清州古印刷博物館の指導も受けているとのこと印刷文化面にも積極的に対応していた。

5、まとめ

1980年7月に初めて渡韓したが、当時はソウル市内では夜12時から戒厳令がひかれ、ソウル市内を戦車が動き廻っていた。それから25年目を経て、韓国は印刷技術と印刷文化面とがバランス良く進展していることがわかる。今回の **drupa2004** でも韓国からの参加者が多く、新技術導入に積極的であった。科学技術と文化の両面の学術研究機関である大学・研究所も整備され、韓国独自の発展をもたらしている。

学術研究機関は釜慶大学校画像情報学部、中部大学校印刷工学科、仁川専門大学メディア学科、東国大学校、延世大学校、檀国大学校、清州大学校などが印刷技術と印刷史の研究を行っている。また、韓国材料機械研究所、ハンソール製紙研究所、清州古印刷博物館、ソウル大学博物館、世宗記念博物館の他、私的印刷博物館が多数存在する。また、学会や研究会組織も充実し、若手研究者も育成され、スムーズにバトンタッチされている。

著者は世界の「印刷博物館に関し調査研究」してきたが、長崎県印刷工業組合の総会でその第2報を報告した。(7) これらは韓国の清州古印刷博物館、ドイツのゲーテンベルグ博物館、凸版印刷博物館など印刷史の学芸活動が韓国でも活発であり、博物館調査の動機ともなった。今後は、学術・文化面で一層発展することを期待し、1980年の「両国の印刷教育研究と友好促進」の精神を堅持し、両国の交流が末永く継続されることを祈っている。

1980年、2005年いずれも **print** 開催年次であり、今回は **800** 社に及ぶ最新機材の展示のほか、**JDF**、**Virtual Remote Proof**、**RFID** など88の講座も準備されていて、技術的発展は著しく、それに伴う文化的価値創造にも貢献しなければならない。

なお、本年6月21日から3日間、ソウル印刷センターで韓国印刷企業と日本の印刷企業との交流会があり、韓国から印刷物を輸入希望する日本の印刷企業との商談会、会社見学会があり、成果を挙げた。韓国からの印刷物輸入は **2003** 年に **2500** 万ドルにのぼる。

今後とも、日韓印刷学術・文化交流を進展できるよう今後も努力していく予定である。

参考文献

- (1) 木下 堯博；印刷雑誌 **82**[6] (1999)
- (2) 木下 堯博；九州産業大学芸術学部研究報告 **30** (1999)
- (3) 木下 堯博；印刷雑誌 **81**[1] (1998)
- (4) **Akihiro KINOSHITA ; Printing & Publishing Culture –Proceedings of the 3rd International Symposium – Cheongju Early Printing Museum pp 165 ~184 (2000)**
- (5) **A.KINOSHITA & S.NAM ; Bull. of Korean Printing Society (Mar. 2001)**
- (6) (社) 日本機械工業連合会、(社) 日本印刷産業機械工業会；平成16年度 アジアにおける印刷技術基盤整備に関する調査研究報告より
- (7) 木下 堯博；世界の印刷博物館に関する調査研究（長崎県印刷工業組合総会、佐世保シティホテル、**2003**年5月23日） (2005年8月10日記)